

# 令和7年度 田園の里 新田学園 自己評価書

【4段階評価】 4:期待以上 3:ほぼ期待どおり 2:やや期待を下回る 1:改善を要する

## ◎ 本年度の重点目標

キャリア教育を学校教育の基盤に位置付け、「夢や希望」「継続と挑戦」「学力・体力の向上」を取組の柱として、学校の教育目標「夢や希望をもち、心豊かにともに伸びゆく新田の子どもの育成」に迫る。小学部と中学部の総力を傾注して、地域に根ざした小中一貫校を創造する。

評価項目	評価指標	具体的数値目標	方策・手立て	評 定 指標別 総合	学校運営協議委員会からの意見	結果の考察・分析及び改善策	
夢や希望	教育が目的、自覚的・主体的な成長に必要となる学びを	自己理解 他者理解 の機会の推進	自分の良さや友達の良さが言える 児童生徒100%をめざす。	良さを褒めたり、良さに目を向けた肯定的な言葉かけを行ったりすることで、自己肯定感の育成を図る。 SWPBS(ポジティブな行動支援)の視点を学校生活や授業の中で積極的に取り入れることで、自他の良さを認め、自己肯定感を高められる児童生徒の形成を図る。	3.5 3.3	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己肯定感を高めることはとても重要。</li> <li>日々の先生方の意識と取組で高い取組が出ている。</li> <li>地域の子ともたちは、よき影響を受けている。(特に登校時)</li> <li>新田神楽に参加している生徒がいる。</li> <li>「自分のよさ」の認知度が高い。</li> <li>職業体験等により早い時期から自分の将来について考える子が増えた。</li> <li>「自分のよさ」がわかる児童生徒が8~9割というは素晴らしい。</li> <li>地域探求学習の発表の機会に保護者の参加を増やしてほしい。</li> <li>「自分のよさ」にもっと気づいてほしい。</li> <li>神楽などの伝統芸能を体験する機会を増やしてほしい。</li> <li>「前ができてきたよさ」という条件付きの肯定はなるべく</li> <li>「そのまますのびなよさ」という存在そのものの肯定が必要。</li> <li>地域のよさを学び、地元で活躍できる人材が育って欲しい。</li> <li>目標設定の高さ、児童生徒が自分のことを深く顧みないで自己評価も低い。</li> </ul>	<p>【考察】児童生徒の約8~9割が「自分のよさ」がわかる」と回答しており、全体的に高い水準である。一方で、目標の100%達成のためには、自己肯定感の低い層への個別支援が課題である。</p> <p>【改善策】SWPBSに基づき、教師が日頃の小さな成功を具体的に価値づけし、本人に「自分のよさ」を自覚させるためのフィードバックを強化したい。</p>
		地域の良さの実感と 学校での学びを社会 とつなぐ機会の充実	全学年で地域について学べる機会を 学習を位置付けることをめざす。	地域の素材(施設や伝統芸能等)や人材を活用した学習を児童生徒の発達段階に応じて取り入れ、地域のよさを実感させるとともに、学校での学びと社会生活との結びつきについての気づきを促す。	2.9		
		進路や生き方、将来に 対する夢や希望について 考える機会の設定	生き方や将来の夢や希望について考 えている児童生徒90%以上をめざす。	高校説明会や職業講話、職場体験学習等を教育課程に位置付けることで、将来に対する夢や希望をもたせるとともに生き方について考え、進路選択についての意識付けを図る。	3.0		
継続と挑戦	実感・挑戦、さらなる環境を整え、めざす教育活動を 挑戦する過程で成長を	規範意識の醸成 と凡事徹底	挨拶、返事、整理整頓ができる 児童生徒80%をめざす。	凡事徹底の項目を「挨拶」、「返事」、「整理整頓」に絞って常時指導を行うことで、当たり前のことを当たり前に継続して実践することの意識化を図り、規範意識の醸成を図る。	3.1	<ul style="list-style-type: none"> <li>「挨拶」「返事」「整理整頓」を継続して見守っていたい。</li> <li>先生方の努力で各項目において目標数値を達成できている。</li> <li>登校時の様子から子ども同士が仲良くできている。いじめ等はみられない。</li> <li>いじめ防止に職員一丸となって取り組んでいることや先生方一人一人が子どもたちの声をしっかりと聞き取り、努力している。</li> <li>中・小学部の生徒が先生方の悩み相談を高く評価し、信頼感が伺える。</li> <li>我が家の近くで小学生にとっても大きな声で挨拶してくれる。</li> <li>いじめ防止の様々な活動や指導のおかげで児童・生徒、保護者の意識が高い。</li> <li>中・小学部のいじめへの思いが新田の子どもの本来の姿になっている。(高評価)</li> <li>日常生活での子ども同士からの無言のうちに、継続した指導が必要。</li> <li>挨拶・整理整頓は家庭での協力が必須。学校から保護者への発信の強化が必要。</li> <li>基本的生活習慣の保護者の評価が低い。家庭との連携がもう少し。</li> <li>挨拶はできる子が多いが、整理整頓が苦手な子が多い印象がある。</li> <li>人が嫌がることはしないという教育をしっかり実施してほしい。</li> <li>働き方改革の面で、家庭・地域で行うべきことを学校が担っている所がある。</li> <li>「全員同じことをする」のが「凡事徹底」ではなく、「その子にとっての最善を継続して行う」ことを「凡事徹底」と定義してほしい。</li> <li>日常生活の基本である挨拶・整理は首がさがるようになるとよい。</li> <li>いじめ・不登校について、外部の力を借りる等、負担を減らし様々な角度から支援や相談体制をつくるのが大切。</li> <li>先生方もしっかりとリフレックスできる時間の確保が必要。</li> <li>リフレッシュデーはしっかりと確実に実行することが大切。</li> </ul>	<p>【考察】8割程度は「挨拶」ができていて」と回答しているが、保護者や中学部生徒、小学部教師の評価が低い。</p> <p>【改善策】全校集会や朝会等で生徒会役員や学級の委員会、係活動の担当が中心となり、「挨拶」の練習や挨拶・無言移動のよい学級を放送で発表し、意識の高揚に努める。</p>
		成長の実感と学校に 対する誇りの育成	継続したり挑戦したりする経験を通 して自己の成長を実感する児童 生徒100%をめざす。	ステージや学部の先輩の姿に憧れをもち、その姿に近づけるために挑戦を継続する過程において、教師が「見届け」と「励まし」の言葉を積極的に言い、児童生徒に成長を実感させ、継続と挑戦を促す環境の充実を図る。	2.9		
		いじめ防止と不登校 への組織的対応	いじめ認知100%、解決に向けた 対応100%をめざす。	毎月のいじめアンケート結果や問題行動等に関する情報共有を図るとともに教育相談を計画的に実施し、早急にいじめ認知をする。また、いじめ不登校・校内支援委員会でも慎重かつ迅速な対応を協議し、いじめの解決を図る。	3.4		
		不登校対応の組織を生かした 支援100%をめざす。	学級担任や養護教諭、特別支援教育を中心 に校内教育支援委員会の開催、外部 専門家であるSC、SSW等の支援を含めた 組織の強化を行い、不登校児童生徒や保 護者への支援や相談体制の充実を図る。	3.1			
		リフレッシュデーの 100%実施をめざす。	毎週水曜日をリフレッシュデーと位置付 けるとともに、業務内容の精選と適切な分 担を図り、時間外勤務時間の削減に努め る。	3.1			
		「働き甲斐」や「ウェルビーイング (幸せ感)」を感じる職員80%を目指す。	学校行事等の精選を図り、教師と児童生 徒が触れ合える時間を確保し、職員が「働 き甲斐」や「ウェルビーイング」を感じ られる働き方改革に努める。	2.9			
学力・体力の向上	体職員の向上を授け、めざす教育指導力 向上による確かな学力・	確かな学力の向上	単元テスト80%以上、諸テストにお いて全国平均、県平均以上をめざす。	①めあてとまとめの整合性、②指導内容の精選、③実態の把握、④発問の精選を図るとともに、基礎・基本の徹底、読解力の視点を意識した授業実践を通して、学力向上を図る	3.5	<ul style="list-style-type: none"> <li>「あなたの学び」等の多くの教育実践より、学力向上につながっている。</li> <li>学力の向上は、先生方の授業改善と見届けの努力の成果だと思える。</li> <li>アンケート結果からも先生たちが現場で目標達成へ向けて努力している。</li> <li>参観授業がもていされて「授業」であり、学力向上へ向け努力されている。</li> <li>学力向上の取組に比べ、よいと思える。</li> <li>熱心で指導している先生方より、新田の子ともたちはのびのびと成長している。</li> <li>子どもも教師も「学校が楽しい」と思えるのが一番。そのための取組がいろいろとなされている。</li> <li>本を読むと全く読まない子の二極化が進むことが心配。</li> <li>運動能力が低下している気がある。地域内には毎日親が送迎する家庭もある。</li> <li>メディアの使用時間の長さが気になる。</li> <li>家庭学習の保護者と児童生徒の意識の違いがなくなるとよい。</li> <li>読書や家庭学習の重要性を働きかけたいと思う。</li> <li>読書量調査について、冊数という「量」の評価ではなく、「質」の評価、その子なりに1冊を読み切った達成感を重視する方向へシフトしてほしい。</li> <li>パーレ部は、自主練で遅くまで練習し、土・日も活動している。普通部活動したい生徒・保護者にはかなりの負担になると思う。全員強制とかなっていないのか。</li> <li>メディア使用の約束について、保護者と子どもとの意識にかなりの差がある。</li> <li>オーディオブック(聴く読書)も読書体験として認め、多様な学びでできないか。</li> </ul>	<p>【考察】校内研究を中心として、タブレットの活用、「ICT教育の推進」「ひなたの学びの実践」等、授業改善を図りながら学力向上に努めた。また単元テスト等の後には必ずやり直しをさせて、見届けすることで学力向上につながった。</p> <p>【改善策】全国学力・県学力対策として、過去の問題を取り組ませ、問題の傾向をつかまらせる。また、多くの情報を整理・分析する力を身に付けさせる。</p>
		読書環境の充実と 読書の推進	発達段階に応じた読書冊数を達成 する児童生徒80%以上をめざす。	新刊図書を紹介やファミリー読書週間の設定による読書に親しみ環境づくりを行うとともに、児童生徒の学年に応じた本の選択ができるような指導を行い、読書活動を推進を図る。	2.5		
		家庭学習の充実	宿題の提出率90%以上をめざす。	発達段階に応じて、課題の内容や量を調節したり、家庭学習の質を高める事例を紹介したり、家庭学習への関心を高め充実を図る。	3.0		
		体力の向上	柔軟性と持久力向上のための運動の 実施率80%以上をめざす。	柔軟性と持久力の課題に対応した運動を推奨することで、児童生徒の体力の向上に努める。	3.3		
		生活リズムの向上	「新田学園メディア使用の約束」を守れ ている児童生徒70%以上をめざす。	「新田学園メディア使用の約束」を随時見直し、児童生徒に適した内容に改善するとともに、自己生活の振り返りや、教育相談を行うことで、児童生徒のメディアに対する意識化を図り、生活リズムの向上を図る。	2.9		
		効率的な部活動の運営	週当たり2日の休養日の 100%実施をめざす。	「新田学園部活動の基本方針」に則り、部活動休養日を完全実施することで、メリハリのある効果的な部活動運営に努める。	3.4		
		【考察】読書の時間の設定により、読書に親しむ児童生徒は多い。しかし、教科指導での図書室利用が非常に少ないこと等、中部部職員への働きかけが弱い。給食時の放送で作品募集で入賞した児童の紹介を行い、読書への意欲付けを行った。また、ベストリーダーの取組により意欲的に読書に親しむ児童生徒も増加している。	【改善策】図書室利用に親し、図書支援員に依頼し、教科や学級によって積極的に活用する。読書支援員や図書委員会を中心として掲示物を充実させ、図書室の環境整備を図る。				
【考察】全体的に宿題の提出率は高いが、個人差が見られる。家庭学習の質を高める事例を紹介することはなかなかできていない。	【改善策】宿題提出の声を適宜聞き、提出するまで見届けを行うようにしていく。家庭学習の事例紹介について、部で協議して事例紹介の手立てを講じていく。						
【考察】体育の教科指導を通して課題の克服に向けた取組を十分行い、体力テストの結果からも柔軟性と持久力の向上が見られた。	【改善策】次年度の体力テストの結果を踏まえ、本校児童生徒の落ち込みの見える項目を洗い出し、体面での全体的な向上を目指していく。						
【考察】「健康振り返りカード」等を通じて、養護教諭が児童生徒への個別指導を行った。	【改善策】メディア使用の約束において、児童生徒と保護者の意識の差が大いである。外部講師を招いての啓発にも取り組むことで、今後も継続して働きかけたい。						
【考察】部活動において、週当たり2日間の休養日の実施は確実に取り組まれた。	【改善策】部活動の活動時間、終了時刻について協議し、時間外勤務時間の削減に努める。						